# 葛西の海の

# 今と昔

NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会
理事長　関口雄三

# 海とともにあった少年時代

失ったふるさとの風景

かさい　だいつづ　はんのうはんぎょ いえ　そだ
葛西で9代続いた半農半漁の家で育つ。

葛西には地域特有の伝統文化があった。

自然との調和の中で暮らし

そのことが、私の「根」となった。



# 子供たちは親を手伝い子供たちの力で稼(かせ)ぐ





海苔すき天日干し

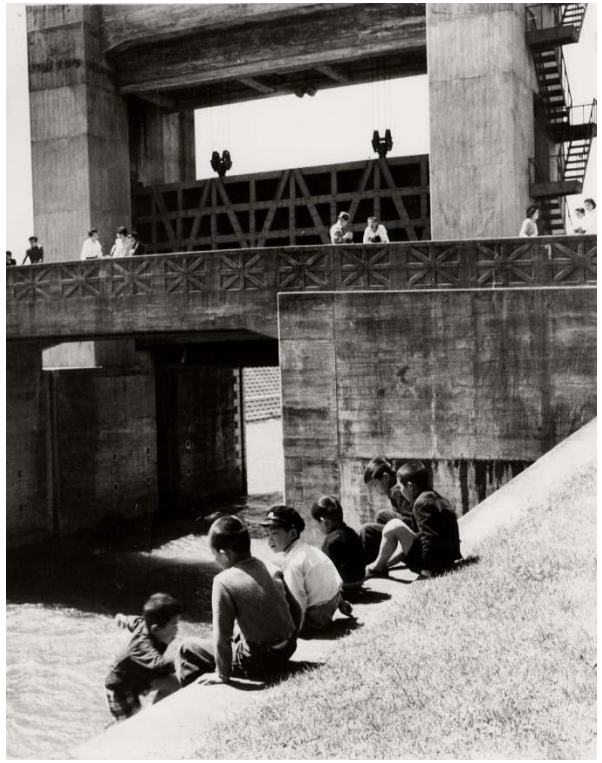


海、川は生活の動脈

# 子供たちは海や川で遊ぶ







川や海は子供達の格好の遊び場であり、教室だった。
江戸川や荒川で泳ぎ、自然相手に自分たちの勇気を試した。

# 豊かさの源である海



海は遠浅で、潮干狩りができ、干潮になると干上がった海で、野球などをして遊んだ



満潮



引潮

# 生活をささえていた海








**働く親の姿を見て、共に働き、自然を相手に生活の糧を得ることの厳しさを教えられていた。**

けいざいはってん　かんきょうはかい
# 経済発展と環境破壊

**1958年6月。**
**高度成長期がもたらした最悪の公害の一つ、**
**日本が環境を考えるきっかけの事件が勃発した。**

失ったふるさとの風景

## 黒い水事件　（本州製紙汚水放流事件）

海は黒く濁り、汚染は浦安から葛西まで広がり、貝や魚は死滅した。
この異常事態で、ただちに漁業協同組合が動き、浦安町から少し上流にある本州製紙江戸川工場から排水されている工場用水であることを突き止めた。このまま工場からの排水が続けば、すべての魚介類が死滅し、海苔養殖にも甚大な被害が出ると、浦安の人口の過半数を占める漁民たちが立ち上がった。



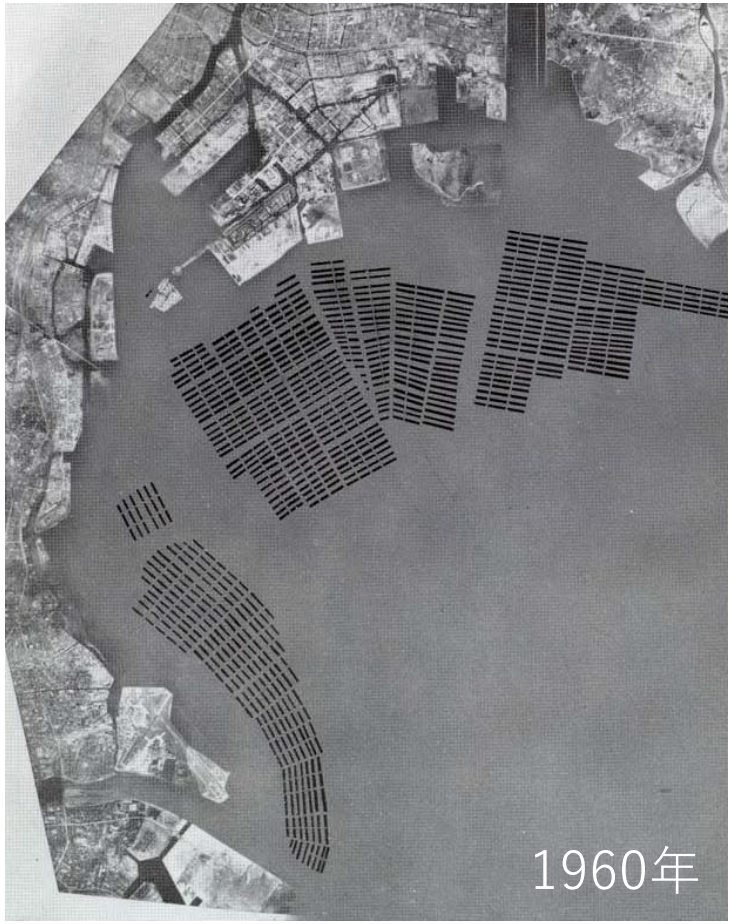




# 埋め立てられる海

消える遠浅の海。
葛西の海では、海苔が育たなくなり、
漁師は漁業権を手放し
海は生活の場ではなくなった。






東京オリンピック（1964年）前の東京湾




「日本列島改造」がテーマとなった



# 変わる葛西、消える原風景



海は生活の場でも遊び場でもなくなっていった。
そして、自然と戯れるふるさと葛西の原風景も消えていった。



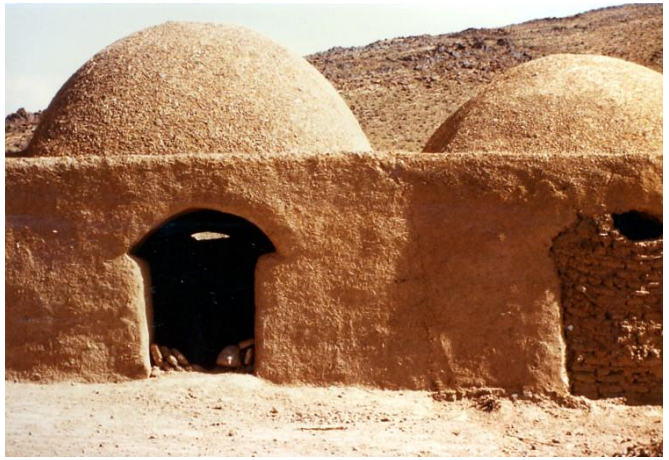


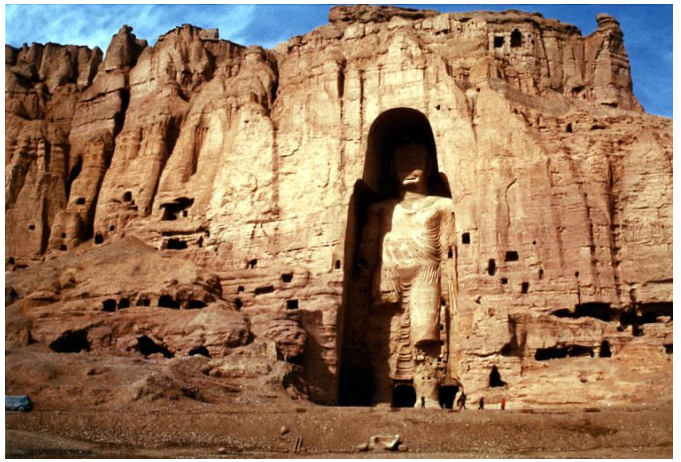


# 本当の豊かさとは何か



1977年　バーミヤンの旅





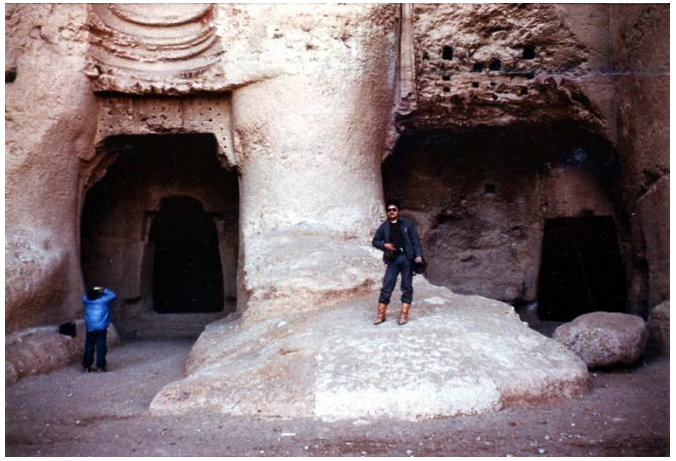
物質的には決して恵まれてはいないが
過酷な自然の中で、輝く瞳の子供たち

物質的な豊かさを得た日本。
経済優先により失った自然。

「日本は本当に豊かなのか」

「豊かさとはなにか」





# 東京湾再生を決断



子供たちへ残すべき東京の自然、海を取り戻したい。

環境再生を軸とした産業構造への移行による持続可能な社会を作る。

東京湾を再生は、東京湾の漁場、地域資源の再創出と漁業の復興へと繋がる。

# 子供たちの泳げる海を取り戻す



東京湾の海水浴場と潮干狩り場の変遷

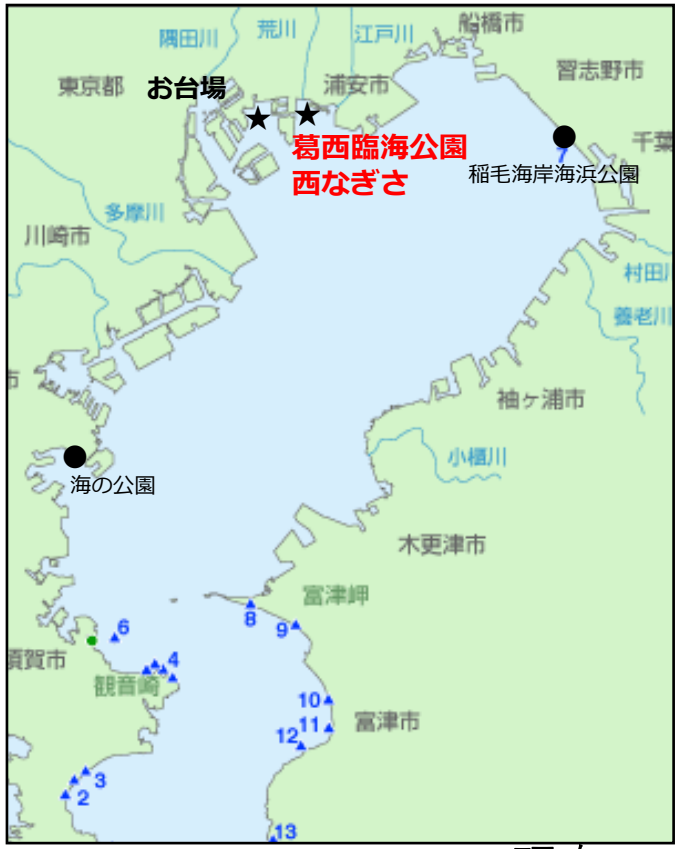



昭和初期




1980年

●海水浴場　○潮干狩り場　★海水浴復活




現在

# 活動のはじまり



**1975~1980年頃**

・東京湾憲章(東京都議会決議)

**2001年**

・ふるさと東京を考える環境フォーラム




東京オペラシティホールにて1,500人の来場者を迎え開催



水中写真家　中村征夫氏との対談



豪華キャストによる唱歌を歌うコンサート

# ムーブメントの創出（そうしゅつ）



**2001年～**

東京湾をきれいにする10万人署名活動(2026年８月達成)








# 東京湾再生に向けたキックオフ



**2003年**
東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム開催（56団体参加）





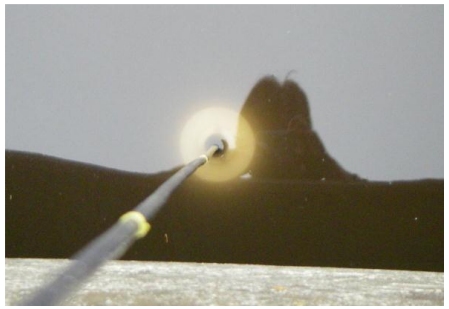

# カキは水を浄化(じょうか)する



カキによる新左近川部分浄化実験







実験対象外区



実験対象区



# とうきょうわんかいすいよくじょふっかつはっぴょう
# 東京湾海水浴場復活プロジェクト発表

海水浴復活への道

## 2008年

葛西海浜公園西なぎさに
海水浴場を復活させるための水質浄化構想図






東京新聞 2008年(平成20年)8月9日(土曜日) したまち 地域の情報 22

諸願祈願
鹿野山神野寺
☎0439(37)2351

したまち

2年後の実現目指し水質浄化

# 東京湾を泳げる海に

## 江戸川のNPOが活動開始

## 葛西臨海公園沖に海水浴場

江戸川区の特定非営利活動法人（NPO法人）「ふるさと東京を考える実行委員会」が、葛西臨海公園（葛西海浜公園）沖に海水浴場を復活させる活動を始めた。カキなどを使って浄化する「東京湾海水浴場復活プロジェクト」が八日発足し、二年後の実現を目指す。その後、東京内湾の他の場所でも復活させたいとしている。（小林由比）

葛西海浜公園の「西なぎさ」。後方右は「東なぎさ」、後方左は葛西臨海公園＝江戸川区で（本社ヘリ「あさづる」から）

同会によると、東京湾奥で現在泳げる浜は、千葉県の稲毛海浜公園だけ。葛西海浜公園の人工なぎさ「西なぎさ」も、水遊びなどはできるが、水質基準を満たさないとして遊泳は禁止されている。

同会は四年前から、カキを育てて海や川を浄化する「マリンガーデニング」構想を提案。既に地元の新左近川で、カキを設置した水域は透明度が高まることを確認している。

先月、同会が西なぎさで実施した調査では、ふん便性大腸菌や水質指標の化学的酸素要求量（COD）などは、海水浴場として認められる基準を満たしていた。透明度は波打ち際で基準を満たさなかったが、プロジェクトでは、西なぎさの前面にカキの柵を設置して半閉鎖し、透明度を高めることなどを検討していく方針だ。

同会は、同区中葛西で建築設計事務所を開く関口雄二さん(56)の呼び掛けで七年前に結成された。葛西で生まれ育ち、少年時代は父親のノリ漁を手伝っていた関口さんは「自分の古里は自分で守るという思いで、地域の人たちが手を携えて、泳げる海を再生させたい」と多くの人の協力を呼び掛けている。

問い合わせは、同会事務局＝☎03(3869)1992＝か、メールアドレスyuzo@sekiguchi-seikei.co.jp



「都市で起きているさまざまな問題は守るべき自然を守らなかったことが原因では」と話す関口さん＝江戸川区で

# 葛西海浜公園西なぎさを海水浴場へ



**2009年**

海水浴場復活シンポジウム開催






**2009年**

葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験開始

（東京都港湾局と協働）





# はじめての里海（さとうみ）まつり



## 2010年



昔の漁具体験



スイカ割体験



地引網体験

# べか船建造



## 2010年







べか船とは
浦安・葛西をはじめ東京湾全域にみられた薄板で造った一人乗りの小舟のこと。軽量で、艫（とも）に縛り付けた櫂（かい）でこぐ簡単な構造で笹の葉のような形をしている。東京湾で海苔採集に用いた海苔べかはその典型である。





べか船乗船体験

# 水を浄化する　はまぐり、海苔、ワカメ



**2010年～**











はまぐり稚貝放流



ワカメ育成



海苔の育成と海苔漉き体験

# 東京湾　50年ぶりの海水浴場復活



## 2012年








2012年(平成24年)8月6日　月曜日

朝日新聞

東京

### 海水浴場復活へ
### 1日限定海遊び
#### 葛西海浜公園



都内の東京湾で海水浴を復活させようと、認定NPO法人「ふるさと東京を考える実行委員会」が江戸川区の葛西海浜公園で5日、1日限定の海水浴場を開いた。関係機関と協議し、水質検査をしてこの日だけ遊泳できる場所を設けた。約3千人が海遊びを楽しんだ。

特別に設けられた遊泳ゾーンで海水浴を楽しむ親子＝5日、江戸川区臨海町6丁目

現在、23区内の東京湾には海水浴場がない。同委員会理事長で、江戸川区中葛西出身の関口雄三さん(64)は子どものころ、夏は近くの海で泳いで育った。「東京のふるさとの海で泳ぎ、生きものに触れ合ってもらいたい」と、海水浴場復活のための取り組みをしている。

署名活動や講演会のほか、ここ3年間は都港湾局と一緒に水質浄化のための取り組みをした。トゲが危険なエイの侵入防止ネットの設置を進め、地元の葛西中の生徒17人とゴミや石を拾い、環境を整備した。

「東京湾での海水浴の第一歩になれば」と広さ約1万5千平方㍍の遊泳ゾーンを準備した。

この日は、すいか割りや地びき網体験などもあった。家族5人で千葉県市川市から来た藤谷富美江さん(34)は「遠くまで行くのは大変なので東京で海水浴ができればうれしい」と話した。同様のイベントは9月2日にも予定されている。問い合わせは同委員会（03・3869・1992）へ。

# 西なぎさ　海水浴場本格化へ



**2013年～**






葛西海浜公園

## 水に顔つけOK

## 東京で50年ぶり海開き



東京都心で約50年ぶりの海開き――。東京都江戸川区の葛西海浜公園で18日、人工海浜「西なぎさ」の一部エリアが水に顔をつけてもいい「海水浴場」として復活、家族連れらが水浴びなどを楽しんだ。

都内の海水浴場を巡っては、高度経済成長期の1960年代に東京湾の水質が悪化したことから、島しょ部を除き、姿を消した。今回の復活に貢献したのは、地元の海でカキを育てるなど同湾浄化の活動などに取り組んできたNPO「ふるさと東京を考える実行委員会」（同区、関口雄三理事長）。13年からは都の許可を受け「顔を水につけない」との条件付きながら、西なぎさで夏休みの土日限定で海水浴体験イベントを開いてきた。

今年は「顔つけ」も解禁。18日～8月30日の土日・祝日と8月10～14日の計20日間で、水質などに問題ない日に限り、午前10時～午後4時の遊泳が認められた。2歳の長女を連れて来ていた江戸川区の男性会社員(41)は「地元で泳がせることができるようになり、うれしい」と笑顔。関口さんは20年の五輪を見据え、「あれだけ汚れた東京湾の海がきれいになった、やればできると、世界中に発信したい」と語った。【武本光政】



## 復活 葛西に海水浴場

東京再発見！ ①

## 水質改善 NPOが汗



風薫る5月、身もむも軽く、お出かけ気分が盛り上がる。五輪を控えて世界から注目される東京は、高層ビルがそびえる繁華街から海山まで、実に情が深い。陽気に誘われ歩いてみると、楽しい再発見があった。多くの人に知ってもらいたい、東京の隠れた魅力を紹介する。

浄化に取り組んできた葛西海浜公園の海を眺める関口理事長（4月22日、江戸川区で）＝池谷美帆撮影

海水浴のできる海が、都心に復活する。

人工干潟が広がる葛西海浜公園（江戸川区）に今夏、都が社会実験として海水浴場を開設する。

「ここは自然の喜びを体験できる東京の海のレジャーゾーンとなりますよ」。葛西の海で水質浄化と海水浴場復活に取り組んでいるNPO法人「ふるさと東京を考える実行委員会」理事長の関口雄三さん(67)が、顔をほころばせた。

東京湾は高度経済成長期に海水の埋め立てが進み、環境汚染で水質は悪化。1960年代に20区から海水浴場は姿を消した。

江戸川区葛西で半農半漁の家庭に育った関口さんは、ノリ漁を手伝い、潮干狩りを楽しんだ少年時代を忘れられなかった。

2001年に同会を結成し、二枚貝を育てたり、水質改善に効果のあるとされる取り組みを続けてきた。その効果か海がしずつきれいになり、都は13年、顔を水につけないなどの条件付きで海水浴を解禁した。今夏の社会実験がうまくいけば、来夏には正式に海水浴場が開設される。

有志も「遊泳禁止から、今は、許可なき遊泳は禁止」と書き換えられた関口さんは「誰かがやらなければならない目標だった。子どもたちのために、古里と感じてもらえる豊かな自然を取り戻したかった」と話す。

「遊泳禁止」▸「許可なき遊泳は禁止」

浜遊びの家族連れでにぎわう葛西海浜公園（4月29日）

今年は、許可なき遊泳は禁止から、「海でスイムが行われる予定となっている。現在、会場変更も議論されているが、安心して泳げる海を目指して水質調査を始めた区の担当者は、「愛着をもってもらえる海を目指したい」と語る。

都によると、東京湾の水質は、工場の排水規制強化や下水道の整備が進んだことで徐々に改善している。海水浴で顔を水につけてはいけないなどの条件はつくものの、都心のウォーターフロントには、自然を楽しむという新たな魅力が加わろうとしている。

大型連休初日の29日、臨海部の高層ビル群や東京アクアラインの海ほたるなどが見渡せる葛西臨海公園には、大勢の家族連れが水遊びに興じていた。地元の小学2年勝山秋奈さん(7)は「貝も取れるし、砂浜でジャブジャブ遊ぶのが大好き」とうれしそう。父親の雄博さん(46)も楽しそうに、「家で遊ぶときより良い顔をしている。自然に触れさせるのがなによりかなと感じた。

葛西海浜公園から西に約8キロ、お台場海浜公園（港区）でも、昨年7月に2日間限定で海水浴場が設けられた。週末は今年も7月に2日間、海水浴ができるよう調整を進めている。

5年後の東京五輪・パラリンピックの招致計画でも、お台場はトライアスロン会場とされ、海でスイムが行われる予定となっている。現在、会場変更も議論されているが、安心して泳げる海を目指して水質調査を始めた区の担当者は、「愛着をもってもらえる海を目指したい」と語る。

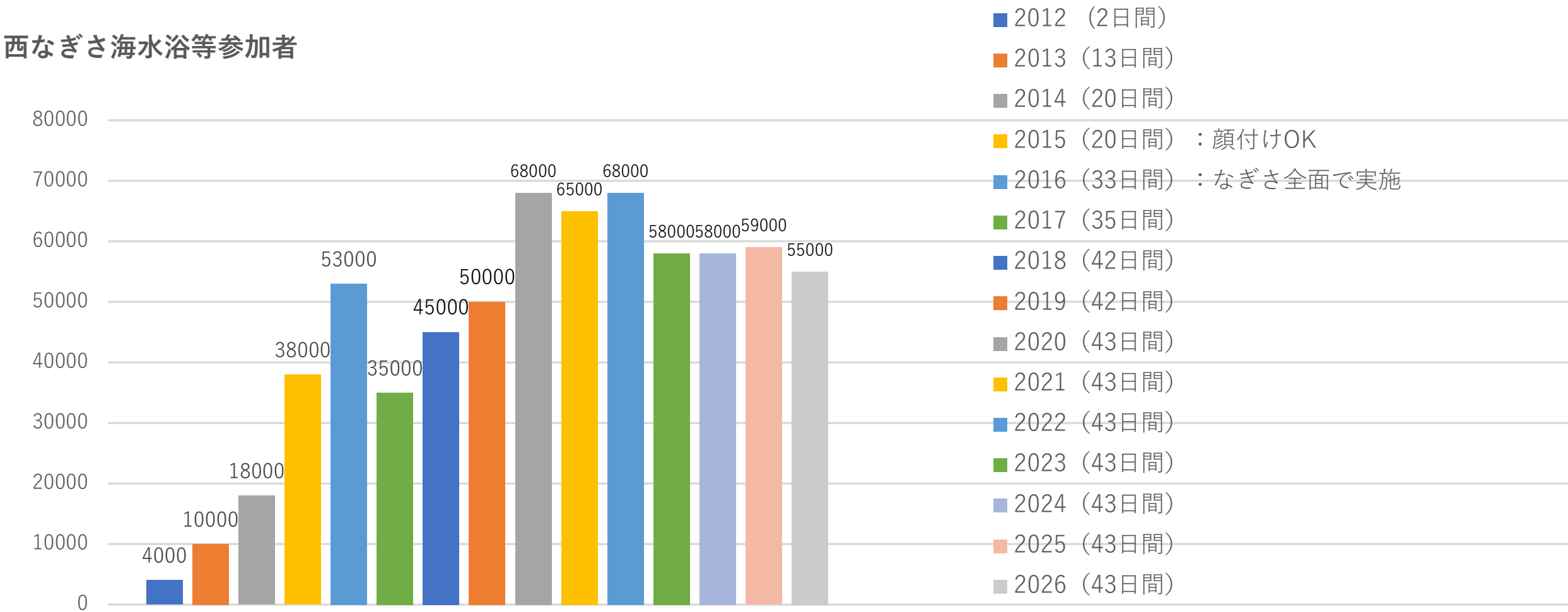
都によると、東京湾の水質は、工場の排水規制強化や下水道の整備が進んだことで徐々に改善している。海水浴で顔を水につけてはいけないなどの条件はつくものの、都心のウォーターフロントには、自然を楽しむという新たな魅力が加わろうとしている。

毎日新聞2015/7/18

読売新聞2015/5/18

# 葛西で本格的に海水浴を実施





# 里海まつり　夏

**2010年~**

海の文化の伝承


海での泳ぎ方教室


ハゼ釣り道具貸出


ビーチクリーン験


バリアフリー生物解説チ


すいか割り


ベカ舟乗船体験


紙芝居


石笛演奏


投網体験


貝取り体験



レスキューボード体験


生物解説

2010年～

# 里海まつり 冬

浅草海苔･ワカメの育成と海苔漉き等体験

海の文化の伝承


海苔養殖


わかめ養殖



受付


趣旨説明


わかめ展示


海苔たたき



海苔すき


焼き海苔


わかめしゃぶしゃぶ


海苔の味噌汁


海苔簾作り


海苔干し

# 里海をまもる活動

## 海開き前の葛西中参加海底清掃



**2012年～**









# 里海をまもる活動　毎月第４日曜日にビーチクリーン活動



## 2018年～




2024年6月、江戸川区から
**第３回ＳＤＧｓ環境未来賞**を授与されました。










# アート連動プロジェクト

葛西海浜公園西なぎさ
絵画・工作・砂の彫刻コンクール



**2009年～**
















2017/10/20　表彰式

2016年～

# 里海里山連携プロジェクト

陸と海との循環をつくる

再生循環活動

竹を伐採して
里山を守る



灰は土壌改良材に

灰



撤去した竹は
「どんど焼き」

竹

竹



竹ひびで豊かで
里海をつくる

竹ひびにカキが付着・生育





カキ殻を砕いて海に戻す

**2016年～**

# 竹ひび1人1本活動（現在約３千本設置）

水質浄化活動











竹ひびに生育するカキの力で海をきれいにします。

古式漁具「竹ひび」設置

## 葛西海浜公園 水質浄化へ

東京湾に面した葛西海浜公園（江戸川区）の水質改善に取り組むNPO法人「ふるさと東京を考える実行委員会」（同区中葛西）が、竹の幹に竹の枝を束ねてくくりつけた古式漁具「竹ひび」を設置するための協賛金（一口二千五百円）を募っている。竹ひびには水を浄化するカキがすみつき、魚やカニが集まる効果が期待できるという。（大平樹）

実行委は昨年、長さ約四　置。今年は千本を計画し、の竹ひびを二百二十本設　三―六月に、園内の「西なぎさ」近くの沖合で海中に差し込み一直線に並べる。

カキは固いものに付着する性質があるため、竹ひびには周辺のカキから生まれた幼生がすむ。風を防ぐ効果もあり、二〇一三年から海水浴ができるようになった西なぎさの波を穏やかにする狙いもある。

最終的には西なぎさの湾をふさぐように、約八百にわたって設置する。担当者は「効果が出るまで数年かかるが、海水がきれいになり、生態系も豊かになる」と話す。

葛西海浜公園に設置された竹ひび＝昨年5月、江戸川区で（ふるさと東京を考える実行委員会提供）

### 江戸川のNPO 協賛金募る

### あす海苔すきと試食会

実行委は海への関心を高めるため五、十二、十九、二十六日と三月五日の午前十一時～午後二時、同公園管理事務所で、海苔すきと試食体験会を開く。実行委が西なぎさで養殖する浅草のりとワカメを使い、型に流してのりを作ったり、のりのみそ汁やワカメのしゃぶしゃぶを試食したりできる。参加無料で各日定員二百人。雨天中止。

問い合わせは実行委＝電03（3869）1992、当日は同公園管理事務所＝電03（5696）4741＝へ。

東京新聞2017/2/4

# 東京湾の水質改善の取組

様々な生き物の力を借りて

水質浄化活動

二枚貝（カキ・ハマグリ等）　水中の懸濁物(濁り）を取込み、擬糞にして排出　→　海水を透明化する
水質の浄化の向上

二枚貝や海藻の収穫　富栄養化した海水からのNP(窒素・リン酸)を除去　→　豊かな海の復活
栄養過多となった海水が
起こす赤潮・青潮をなくす



本はまぐり稚貝放流



カキの育成



ワカメの育成



海苔の育成

# 東京湾をよりきれいにする活動










西なぎさ水質浄化ゾーニング





2024年～2026年
海苔の佃煮を江戸川区に寄付することにより、
江戸川区の人々が、海に関心を持っていただき、
江戸川区の海をもっときれいで豊かな海にするというムーブメントを盛り上げていければと考え、
千本を寄付いたしました。（3回）
佃煮は、江戸川区の葛西地区の小学校を中心に給食として活用されました。




**葛西で養殖され海苔の佃煮について**

昔は美しい海に恵まれた漁村だった葛西の海は、日本の高度成長期とともに汚染され、いつしか海苔養殖は姿を消し、海水浴もできない状態になってしまいました。

私たちは、この地に「昔のような豊かで美しい海と、心地よい潮風を感じることのできる自然環境を取りもどしたい」という思いで、葛西の浜辺や海の浄化に取り組んできました。

そして2012年、葛西海浜公園で約50年ぶりに海水浴を復活させました。この海水浴は、今年で13年目になり、これまで約50万人もの人々が海水浴を楽しんでいます。

さらに私たちは、里海文化を子供たちに伝えるためや、ブルーカーボンに役立てるため、2011年から、葛西海浜公園で海苔養殖を始めました。そしてこの海苔を使って海苔すき体験もやっています。

今日、皆さんに食べてもらう「葛西産海苔佃煮」は、きれいになった葛西の海で、私たちが、一生懸命、冬の寒い海の中で、海苔を育て、収穫した海苔からつくられたものです。葛西の海でも、昔のように海苔が採れるようになった事、そして私たちが東京湾をきれいにするために活動していることを知ってもらいたくて、この海苔の佃煮をみんなに食べてもらおうと考えました。

美味しい海苔の佃煮、是非味わってくださいね。

# 建築家としての「関口雄三」

「と」を意識する

**〈あなた と 私〉**

この、なにげない言葉に、
都市のあり方の鍵があった

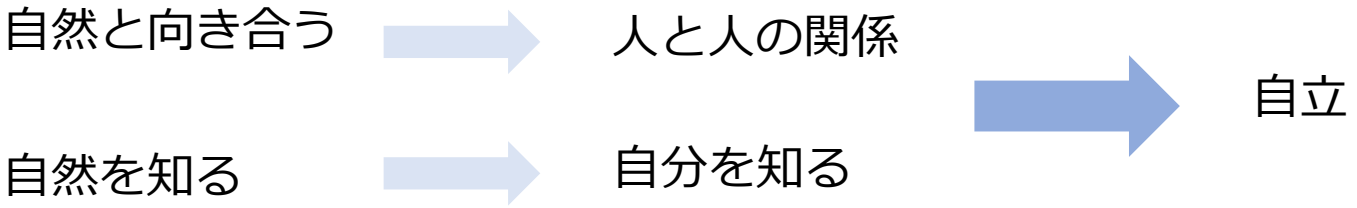
「と」というのは、〈あなたと私〉の「と」のことです。
〈あなたと私〉の間には、「と」という目に見えない存在があるのです。
　分子と分子、細胞と細胞、モノとモノ、人とまち、都市と都市、それぞれをつなぐ「と」の存在があって形づくられています。「と」という境界、領域、空間があって、すべてのものが連鎖し、無数に存在し、広がり、環となるのです。
　私はこの「と」の存在に気づくことこそが大切だと考えています。この「と」を意識しなければ、その結合や融合はゆがみ、連鎖は途切れてしまいますが、「と」を意識することで、その関係性や意味性が明確となります。

# 50年後を目指して

ふるさと再生は"日本再生"へとつながる

# 再生すべきコト

## 子供たちに伝えたいこと



# 海から考える

生命を育む「里海」

## 海を守り、再生することが何より急務である

富栄養化

海洋ゴミ

赤潮・青潮

マイクロプラスティック

ブルーカーボン

貧酸素水塊

共生

# サスティナブルなスモールシティへ

- ●都市の性能
- ●職住分離
- ●災害・防災
- ●人口減少・少子高齢化
- ●ヒートアイランド現象
- ●温暖化・CO2対策
- ●省エネルギー
- ●AI・IoT



- ●持続可能な循環型社会
- ●職住近接
- ●アクセスの利便性
- ●第一次産業の復興
- ●観光産業
- ●地産地消
- ●コミュニティの形成
- ●環境対策

共生都市

# 21世紀は再生の世紀

## ±＝0

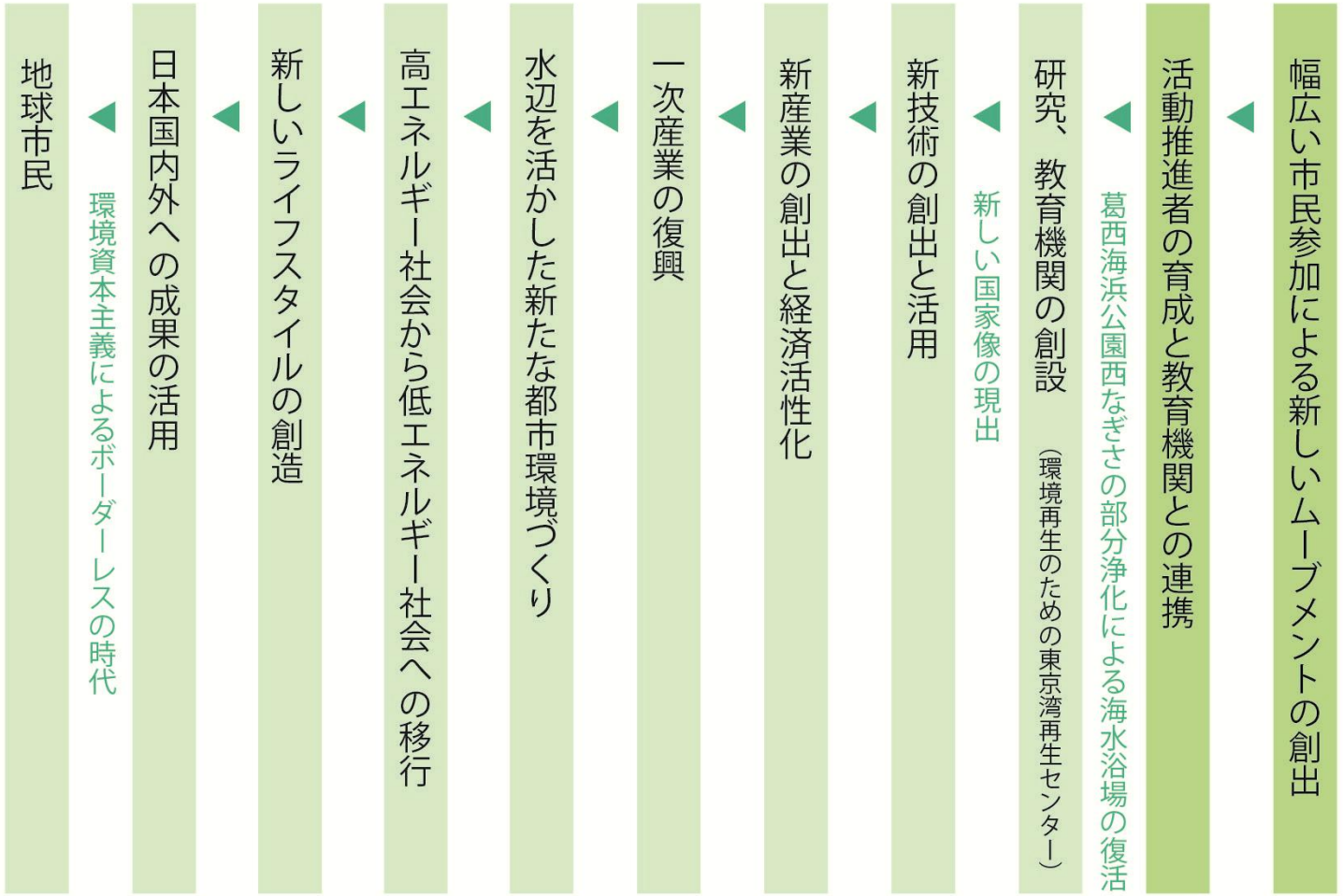
東京湾の富栄養化による赤潮・青潮の発生（プラス）を
カキが海中のプランクトンを食べて成長することを通じて水質浄化（マイナス）し、
赤潮・青潮の発生を抑制する（ゼロ）

# 東京から日本、そして世界へ

## 環境資本主義

# 今後の活動と課題

未来に向かう活動へ



私たちは、
自らの「海」や「ふるさと」は、
自らで守るという考えのもとに
葛西の海で海水浴を復活させました。

次代の子供たちのために
「ふるさと」を一緒に守り、育ててゆくこと、
そのためには、「ふるさと東京」の再生を
様々な分野から総合的に考える
[**東京湾再生センター**]の設立が
必要であると私は考えます。

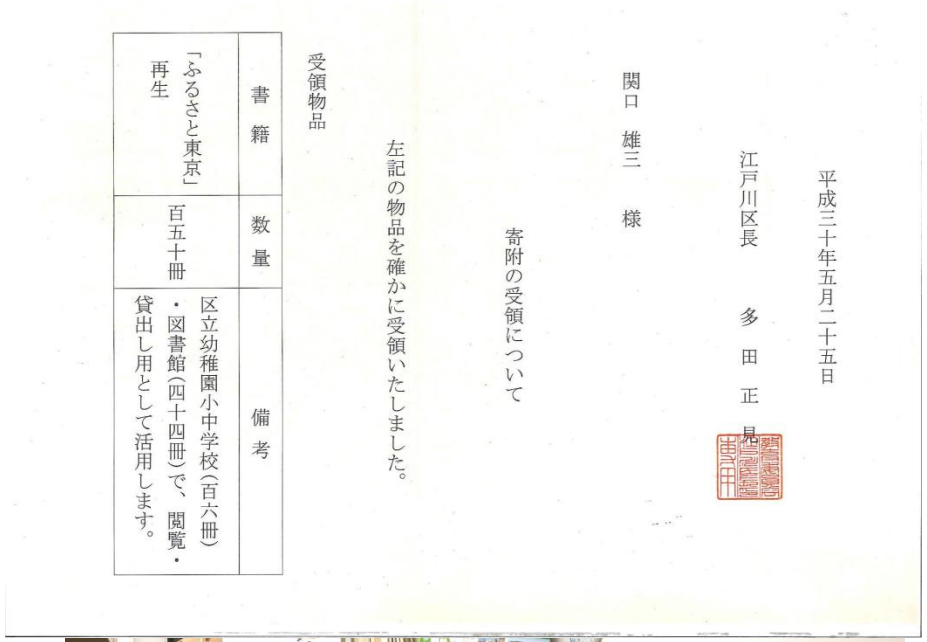
関口雄三

関口雄三著書のお知らせ

幻冬舎
定価（本体1300円+税）

※江戸川区内小中学校に配布済み
※中学総合学力調査にて使用予定



平成三十年五月二十五日

江戸川区長　多田正見

関口雄三　様

寄附の受領について

左記の物品を確かに受領いたしました。

受領物品

| 書籍 | 数量 | 備考 |
| --- | --- | --- |
| 「ふるさと東京」再生 | 百五十冊 | 区立幼稚園小中学校（百六冊）・図書館（四十四冊）で、閲覧・貸出し用として活用します。 |

